

経済産業大臣
茂木 敏充 様

北海道生活協同組合連合会	会長理事	麻田 信二
青森県生活協同組合連合会	会 長	井筒 智義
岩手県生活協同組合連合会	会長理事	加藤 善正
秋田県生活協同組合連合会	会長理事	大川 功
宮城県生活協同組合連合会	会長理事	齋藤 昭子
山形県生活協同組合連合会	会長理事	松本 政裕
福島県生活協同組合連合会	会 長	熊谷 純一

(公 印 略)

灯油の適正価格と安定供給に関する要請書

貴職におかれましては益々ご清栄にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より生活協同組合の諸活動にご高配賜り、心より御礼申し上げます。

さて、北海道・東北地区に住む私たちにとって暖房は不可欠であり、「灯油」はその主力エネルギーとして欠かすことができない生活必需品です。灯油が適正な価格で安定的に供給されることが私たちの願いです。

しかし、今冬の灯油価格は、18㍓1缶で1,800円を超える価格水準となり、2008年の原油高騰時に次ぐ価格水準となっています。この灯油の高騰は、2011年の冬シーズンより維持され、生活必需品である灯油の高騰は、大震災や経済不況の影響を受けている地域経済や家計を直撃しています。石油製品の高騰は中小零細事業者や農林漁業者などにも大きな打撃を与えています。

しかも、原油価格の上昇に比べて灯油価格だけが極端に値上げされています。同じ石油製品にも関わらず、灯油の単価はガソリンに比べ高くなっています。なぜ、需要期になると灯油だけが大幅に値上げされるのでしょうか。

原油高騰は、投機マネーが主な原因だといわれており、欧米の政府が努力しているように、投機を抑えるための取引の透明化や取引高制限などの規制に日本政府も率先して努力するべきと考えます。

国内でも、行過ぎた規制緩和で石油業界任せになり、原油高騰と相乗して価格が上昇しやすくなっています。供給に関しても、全国では毎年1千箇所ペースで給油所が減り、今後ますます過疎地や被災地での給油所不足は問題になります。燃料は、食料に次ぐ生命線です。東日本大震災のときのような状況を二度と起こさず、地方や被災地が取り残されることがないように、供給に関しては石油行政の果たす役割は高まっています。

特に、今冬は寒い日が続いており、被災者は苦しんでおります。例年とは違う対応が必要です。

つきましては、国民の生活を守るために、国民の立場にたって、この冬を安心して暮らせることを最優先に行政責任を果たすよう、以下のことを要請します。

記

[要請項目]

1. 原油の高騰による灯油価格の上昇について、適正価格となるよう改善してください。特に、灯油価格独歩高の異常さについては、原因について説明を求めるなどして、灯油という「必需品」が他油種より高くされる状況を改めてください。
2. 在庫量の不足が起きないように、灯油在庫量の監視と流通状況を把握し、安定供給を実現してください。寒波や不測の事態が起きても生協などに灯油が入らないことのないようにしてください。

以上